

スペインの旅—



日立市総務部総務課

主事 小塚 聖子

5月のゴールデンウィークを利用して、心身のリフレッシュのため、念願の海外旅行が実現しました。

憧れのスペインへ行けるという興奮と、中華航空機事故のことが重なり、期待と不安のなかでの出発でした。

スペイン国内は、マドリッド、コルドバ、セビリヤ、グラナダ、バルセロナの5つの都市を見ってきましたが、スペインと聞けば、誰でもすぐに闘牛、フラメンコ、情熱の国と思いつかふことと思います。

マドリッドへ着くと、さっそく闘牛場へと足を運びました。窓口でチケットを買おうとすると、すぐダフ屋が集まってきて、チケットを買え買えと迫ってくるので、ちょっと恐れ気もしましたが、どうしても見たいという気持ちを抑えることができず、結局、チケット完売のためダフ屋のおじさん？から買うことにしました。それでも、定価以下でしたので安心しました。

場内は、地元スペイン人の熱気であふれ、私達は始め緊張していましたが、1頭、2頭と牛が倒されていくうちに場内が一層盛り上がり、最後は私達も我を忘れて大歓声を送っていました。あの時の胸の高まりは今でも思い出され、もう一度見たいという気持ちにかられます。

次のグラナダ(スペイン南部の都市)は、ちょうどお祭りの最中であり、街中のあちこちに十字架をカーネーションで飾ったり、お供物がしてあるのを沢山見かけ、それがとても美しく、今でもまぶたに焼き付いています。また、広場では色とりどりのフラメンコ衣装に身を包んだ女性で一杯で

した。

東洋と西洋の文化が融合したスペインを象徴する色は赤、青、黄、緑であり、赤は革命、戦争の力を表し、黄は光、富、緑は森やイスラム教、青は水、空を表わしているそうです。

遠い昔、アラブからスペインに移動して来た人々にとって、水、光、緑はこれまでの砂漠の生活に安らぎを与えるオアシスであり、楽園であったにちがいません。そして水、光、緑の3つの要素は、アラブ様式の建築になくはならないものとなり、これが今日のスペインのパティオ(中庭)となっているそうです。

このパティオは、どこの家々にも必ずといっていいほどあり、庶民的なものから豪華なものまで、それぞれいろいろな工夫がしてあり、手入れも行き届いています。そして、街角や広場にまで噴水やたくさんの緑が見られ(これらもパティオと呼んでいる)、いつも沢山の人が集い、コミュニケーションの場となっているようです。

当日立市にもパティオ広場がありますが、緑という点については少ない感じがしています。

又、シエスタといって13時~16時まで昼寝の習慣があるため、夜中の12時過ぎまで子供達が踊ったり遊んだりしている様子は、日本と全然違う異国の地であると驚きました。

ほんの一部ではありましたが、スペインの生活、文化に触れ、楽しんだ8日間は、私にとって生涯忘れることのできない貴重な体験でした。今後も機会をつくって、各国を旅し、私の財産を増やしていきたいと思っています。

経 済 動 向

国内の動き

● 地方景気に明るい兆し

経済企画庁は、94年の地域経済リポートを発表した。リポートは、景気後退が関東、中部、近畿の3大都市圏に加え、93年以降は北陸、中国などの地方にも広がったと指摘。94年に入ってから、3大都市圏の景気の落ち込みは依然として深刻なものの、住宅建設や公共工事の増加、消費の

持ち直しなどから、「地方を中心に変化の兆しが見られ始めている。」と分析している。景気回復は都市部が先行する従来の傾向とは違い、地方景気が早めに上向き、低迷が長引く大都市圏との格差が生まれる可能性を示唆している。

(5月13日付 日経)

● 簡保の新規契約 減少

郵政省が発表した93年度の簡易保険の新規契約状況によると、新規契約は前年度に比べ契約件数で4.0%、保険金額ベースで1.7%それぞれ減少した。件数、金額とも前年割れとなったのは、60年度以来33年ぶり。景気の低迷や主力商品の養老保険の勧誘自粛が影響した。

簡易保険の93年度の新規契約は、件数が917万5000件、保険金額が23兆8580億円と、いずれも前年度実績(956万件、24兆2683億円)を下回った。結果として、郵便局に払い込まれた保険料収入も、新規契約分は前年度比で1453億円減った。(5月17日付 日経)

● 不良債権 3.4%増加

日本開発銀行など政府系金融機関の92年度の不良債権の実態が明らかになった。最も多いのは国民金融公庫の1275億円で、9機関合計の不良債権額は、前年度比3.4%増の4196億円だった。貸出残高に占める不良債権の比率は、貸出残高の伸び率が高かったため前年度より低下し、9機関合計で0.45%にとどまった。93年度以降も不況の深刻化で

不良債権は増えているが、貸出残高に対する比率は、ほぼ横ばいとみられる。

個別に見ると、小規模企業への融資が多い国民金融公庫の延滞率が1.58%で最も高く、環境衛生金融公庫が1.47%で続く。逆に低いのは、住宅金融公庫の0.05%、日本開発銀行の0.20%などとなっている。(5月26日付 日経)

県内の動き

● 公共事業 目標契約率80.5%

橋本知事は、低迷する県内の景気を回復するため、94年度上半期の公共工事などの目標契約率を昨年度と同率の80.5%に設定したと発表した。円高不況時の88年度に実施した前倒し契約率を若干下回り、国の予算成立が遅れば、目標契約率の修正もあり得るという。

県財政課によると、上半期の目標額は公共工事を含む投

資的経費のうち、人件費や地方公共団体への補助金などを除いた事業費は2960億9600万円に上る。このうち、県単独事業費は1249億5700万円(総額の83.1%)を占める。

対象事業は公共的な建物や道路、河川、港湾、上下水道などで、主な事業としては県立医療大学の本体工事、新栽培漁業センターなどがある。(5月11日付 茨城)

● 賃上げ率 過去最低

県商工労働部労政課は、今春闘の賃上げ状況をまとめた。把握率は約5割とまだ中間報告の段階だが、賃上げ率は1954年の調査開始以来最低となっている。妥結額についても、3年連続で前年実績を下回っている。

県内の310労働組合が調査対象で、内訳は、中小企業(従業員300人未満)160組合、大企業(同300人以上)150組合。

このうち157組合の妥結が報告され、把握率は50.6%となっている。

妥結状況をみると、賃上げ額は前年より1,936円少ない7,754円。賃上げ率は前年比20.0%減の3.06%で、過去最低。額についても、過去10年間で、87年の6,975円に次ぐ水準となっている。(5月21日付 茨城)